

函館山の風景

2021. 10 島田祥生

「うえのはつのやこうれっしゃおりたときから・・・」。それから約2時間半で、「ごらんあれがたっぴみさききたのはずれと・・・」。で、陸奥湾を抜けて津軽海峡に入ります。函館山が見えてきて、帰ってきたとの思いが。湾内に入り、栈橋に着岸。3時間50分の船旅だった。この摩周丸が博物館として係留されているあたりに、2本の栈橋があった。

「は～～るばるきたぜ はこだてへ～～」！

いつも、私たちを出迎え、見送り、函館を見守ってきた、函館山。今回、その姿を色々な所から眺めてみた。かつては、高い建物がなく、どこからでも見ることができたのだけれど。

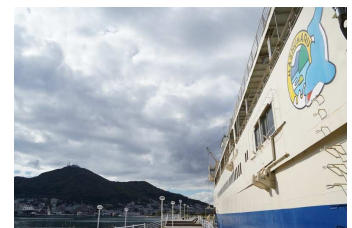


函館空港近くの根崎海岸からの眺め。

格好のデートスポットと思いませんか？

函館駅から電停一つ目の市役所前に行く路面電車。

湯の川終点と、この先の山裾の十字街で二つに分れ、左手の谷地頭と右手の函館どっく前を結ぶ。端から端まで260円。勿論、SUICAも使える。



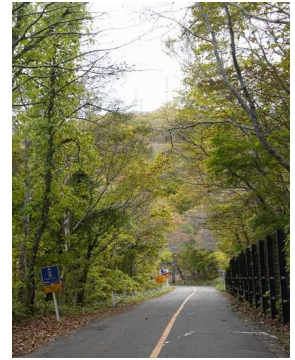
6隻あった連絡船。

それぞれにマークがあり、船体色で何丸か分かった。



函館山2合目からの眺め

ロープウエーが法定点検のため休止中で、自動車道路を徒歩で4合目(海拔200m)まで。あとの予定があり、頂上を目の前にして引き返す。



2合目(海拔140m)から函館港を望む。真正面の三森山が気になる。 路面電車が見えた



2合目からのパノラマ。4合目は、木が茂っていて眺望できず、残念。

やはり、頂上からの眺めがいいですね。

人気観光スポットの一つ「金森倉庫」

ショッピングや食事が楽しめる。
有難いことに、人では戻ってきている様子。

クリスマスの時期には、右手前の海上に、
カナダから運ばれる大きなもみの木の
クリスマスツリーが見事。
雪道を歩くと、キュッキュッと音がる。



函館公園のある青柳町電停から



連接式の電車がこの1年で増えていた。

函館公園からも見える。右手に啄木の歌碑が。

「函館の青柳町こそ愛(かな)しけれ 友の恋歌矢車の花」

終点の谷地頭に向けて、坂を下る。



終点の谷地頭からの山頂は、ちょっと苦しい。

左手の店は、杉並区から観光に来て、ひとめぼれし、お土産屋をかまえてしまったという、話好きな、ステキなお姉さんのお店。

五稜郭からの函館山

五稜郭タワーを無理やり入れたため、小さくなってしまったが、実際は、もっと大きく見える。

右手の広場に、復元した函館奉行所がある。
土方歳三も、この土手を上って戦況を見定めたか。

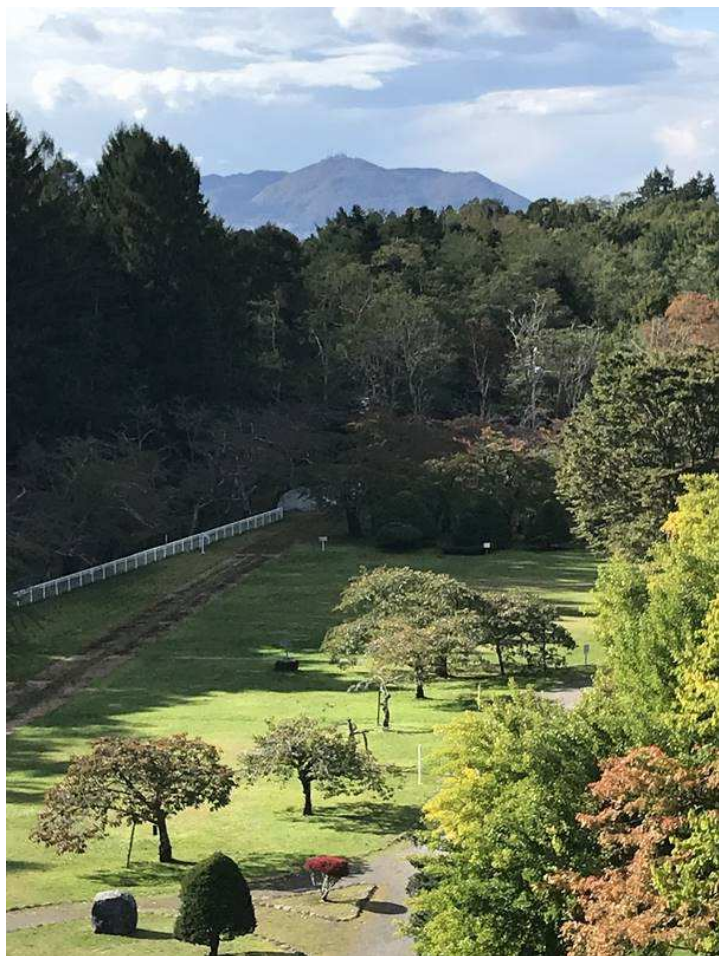


市民の水がめ、赤川水源地より

子どもの時から、ここからの眺めが大好きで、五稜郭の裏から歩いて来てしまった。木は伸びたが、期待通りの眺望。

赤川水源地（笹流ダム）は、函館の疫病流行防止のため、全国に先駆けてできた、水道専用のダム。

40年ほど前に、大改修して今の姿になったが、元は、板を斜めにして柱で支えたような独特な構造をしていた。



堰堤の上から木の間越しに。広場の紅葉が進む。函館山のとっぺんから、目を凝らすと、このダムを見つけることができる。

笹流ダムは、亀田川の支流笹流川をせき止め、大正12年(1923)に完成した水道専用のバットレスダム(扶壁式中空鉄筋コンクリートダム)です。

この形式のダムとしては日本で初めて建設されたもので、小野基樹氏(後の東京都水道局長)の設計監督によるものです。

このダムに貯えられた水は、赤川低区浄水場へ送られ飲み水となり市民に利用されています。

このレリーフに、ダム建設の由来が

帰路、空港にて

羽田行の搭乗前に、ガラス越しに。飛行機は、行きも帰りも、満席。



搭乗したのは、JAL です

